

珠玉の市民文芸が結集 文芸祭奨励賞作品を紹介

市民の文芸作品の発表の場として、毎年「文芸にいつ」が発刊されています。昭和51年から始まり、今年で第22号。今年は随筆、短歌、俳句、川柳、詩、小説の各部門に198人、854作品が寄せられました。今号では各部門の奨励賞作品をご紹介します(敬称略)。

なお、受賞者の言葉は、「文芸にいつ」に掲載の「受賞者寸感」の一部を抜粋したものです。

文芸祭作品集「文芸にいつ第22号」(1000円)は、次の場所で頒布しています。
◇頒布場所…図書館、本町二番館、市民会館、生涯学習課、荻川地区公民館



詩

高校生の孫から祖父の戦争体験なるものの問い合わせがあり戦友会の資料などを読み返すうちに、当時のひたむきな生きざまに思い比べて平和ボケしている今の私はどうなのかと改めて自分に問い直し、今出来る事の手始めにこれを形として確認してみようと思えて七十の手習いに挑戦してみた。

空

吉田 萬吉 (新町2)

台風がすぎたあとの空は
小さな白い雲がむくむくと二二三浮き
天国までも覗けそうにはてしなくひろがる
“ひげが伸びて来ましたよ”
漫然と空を眺めながら
昨夜も剃り忘れた顔をゆつくりと撫でると
たしかに、ザラザラと掌に引っかかる
眩しいほど純白に輝いている雲がうすれ
みるみるうちに青空に溶けこむ
まるで、出撃の特攻機のように
たよりない記憶の一番上つらつらに
まぼろしとなった雲がふんわりと乗っかり
触発されて底深く沈んでゆく記憶が
不思議に早くぽかりと浮かび
翼を振って別れを惜しむ特攻機が
飲み込む涙のむこうに、もう見えない

いかに死ぬか
戦時下の若者に
それ以外に選択の自由はなく
志願した海軍で更にそれが増幅され
やがて、敗戦

すべての価値観が逆転した社会に放り出され
短く長かつた半世紀
それなのに平穏な暮らしに馴れ
いつの間にか老いに甘えみだれ
羞恥をむこうへ押しやろうとする生きざまが
どこか腰を据えている
“一、無精二巨ルナカリシカ”
何をするという事もないが
今日も暑くなりそうな空に向って立ち上がり
大きく背伸びをする
せめても、今宵はひげを剃らねば

随筆



観光と憂愁

茅 楯生 (吉岡町)

あの頃、従姉妹の連れ合いが青黒い顔で「間もなく自分史を書き終る」と言うのに思わずぞっとする。数週間後、自分史は終わり肉体も癌に冒され還らぬ人になった。その従姉妹が「自分史を書いたら」と勧めたけど未だ死には早すぎる。
老化現象で体力や情熱は衰退の一途だ。生きることに必要な力に乏しい。この受賞がきっかけで生きる力になれば幸いなんだが。

「人生は旅」。古奥いことばだが山あり谷ありの變化に富むほど苦しくとも、またおもしろみが増すかもしれない。凡俗は新体験を求めたが故に脱出する旅が病みつきになる。遺跡・風俗を見て歴史や世界の人達を考え旅に息を止めて地球の不思議を思う。荒涼とした風景の中でふと旅愁に浸るのは意義あることのひとつだが、やりきれぬ思いに遭遇することも旅なればこそである。
外国旅行は手続きの煩わしさやこぼれの不自由さからバックツアがほとんど。いや何よりも貧乏人に地上安上がりが魅力だ。ショッピングの時間が長く時間がもったいないと思うことは毎度のこと。

でもそれが狙いの参加者や店からのマージンを期待するガイドも居たりして……。南米のホテルで珍しく寝室が二部屋に分かれ運が良かったと思ったら相部屋の男が亮春婦を連れこんだり……。酔っぱらい、暗嘲、虚言や自慢話。衣装・装飾品・買物の張り合い、陰口……。人間模様の醜態は日常の延長か。だが割安旅行なんだと、我を抑えて黙々と行動をとるにいく。
—カンボチア—
—ノンバンタンの丘—
バスの周りは物売りと一緒に多くの子ども達が集まって騒々しい。岩がむき出しの道と言えぬ急坂を登り始めると「アツイネ」

「キョウケツ」と手を出して手伝いたがる。チップを承知の観光客は相手しない。それでもどろどろ頂上までついて来た。急な石組みの上に築かれた祭壇を登る。遺跡に刻まれた腰から上が裸のエロチックな女神像、夕日を受けて輝く遠くの湖やぼつんと浮かぶ岩山。アンコール・ワットを俯瞰できるこの丘は景勝の地である。みんなが見守る土漠の赤いサンセットは静寂幽玄で美しい。「めつたに見られぬすばらしい夕日」と言うガイドのことは共感して薄っぺらな顔の輝く光がみんなを包む。観光客に混じって子ども達も暗くなった麓のバスまでついてきた。登り始めから最後までつかず離れずのふたりの子がお金をやるのは？と考えてボールペンと二色シャープペンをプレゼント。ところが、もつと欲しい仕草をするのに興醒めしてしまう。敗戦後、米兵に「ギブミー・チョコ」と群がった日本の子ども達より未だ遠慮深いか。
—広大なアンコール—
—トムの遺跡群—
バンテアイ・スレイの門前で四才ほどのあどけない子どもが三人、年寄りの太鼓に合せて腰を振りながら踊っている。観光客はパチパチとシャッターを押しながらチップも出さずに次々と門の中へ消えた。人為的修復が加えられず発見された当時の姿を残す石の寺院タ・ブローム。大きな石像や石堀がガジュマルの根にからみつかれている。石の間に根が喰ひこみ壊された破損するのすさまじさに感動して出て来た門前で先刻の子ども達が再度踊らされている。痛々しい生きている姿だ。パイオン寺院で片手の男がお祝を差し出す。アンコール・ワットでは参道五百米の石量に手先の無い人、足を失った人等、無心の人影が散在する。瞑目して組んだ両手を上下しながら歌お経か祈りか判らぬが叫び続ける老人。戦後の日本で傷痍軍人を装う人達が悲痛な軍歌を奏しながら街頭に立つ姿を想起する。観光客は誰もが見て見ぬふり、現地ガイドも「観光客の慈悲で解決できる問題でないです」と言うが気持ちいいんだん重苦しさを増していく。内戦や地雷による犠牲者がすべてと断言できないにしても、こんな人達がどのくらい居るのやら。また権力争いの内戦が起きたが悲しいことである。底辺で生きることにあえぐ者は個性を追いやられ思考や生き方は金銭の圧力に屈して歴史の中に埋没していく。この遺跡を造った先祖とどんな繋がりがあるだろう。

お買物、ご用命は市内で

お買物、ご用命は市内で

古くなった給湯機、今がチャンス!!
給湯機入替えセール実施中 12月20日(土)まで
水まわり増改築専門店
水と住まいのふれあい
システムショップ かねみや
INAX
ガス、石油給湯機 20%OFF
本町2丁目1-11 ☎24-1630

W 本年はありがとうございました。 W
渡辺美容院
本町3 新津川寄りの下道通り
☎(22)0626
◇営業時間 9:00~18:30
◇9時前&18時以降は予約制
FAX (25) 2515
(本店) ☎0120-230626
“定休日”
毎週火曜&第1月曜
中第3日曜日
ヘアーステーション
わたなべ駅前店
新津駅交番前 ☎(22)2611

忘・新年会は春雨で
飲み放題・おすすりめコースもご紹介します
新味割烹 春雨
本町1(駅前) ☎22-1600(代)